

表郷・東地域巡回バス新車両導入合同セレモニー
地域交通の利便性向上に期待

4月3日、市役所表郷庁舎（表郷金山）で「表郷・東地域巡回バス新車両導入合同セレモニー」が行われ、各地域への新車両導入を祝いました。国の補助金を活用して購入したこの車両には、乗降しやすいように手すりやステップが装備されています。式では、鈴木市長が「市民生活の利便性向上につながることを期待します」とあいさつしました。また、セレモニー参加者には、新車両のロゴが入った記念品が配られました。



▲新車両導入を祝いテープカット

財自治総合センターのコミュニティ助成事業
宝くじの助成で災害に対する地域の備えに

市では、中田防災会（角田秀夫代表）に対して、(財)自治総合センターのコミュニティ（宝くじ）助成事業を活用し、防災活動に必要なテントや発電機などの防災資機材を交付しました。中田防災会は、平成15年の結成以来、地域が一丸となって防災活動に取り組んでいます。角田代表は「東日本大震災を教訓に、交付された資機材を有効に活用します」と話しました。この助成による自主防災組織への資機材の交付は、14団体となりました。



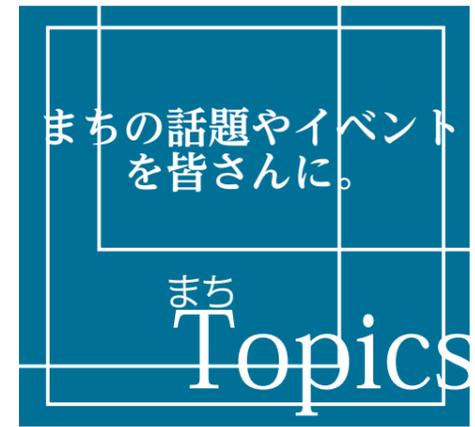
▲中田防災会の皆さん

小峰城道場門遺構竣工記念式典
市街地に残る貴重な城郭遺構を整備

平成23年2月に国認定となった「白河市歴史的風致維持向上計画」に基づく「小峰城道場門遺構整備事業」が完了し、4月19日に竣工記念式典が行われました。小峰城南西の出入口である道場門跡は、小峰城三の丸から道場小路武家屋敷に通じる門で、市街地に残された貴重な城郭遺構です。本事業では、石垣の露出展示を行うなど、地下に残されていた江戸時代の遺産を生かして園路整備を行いました。往時の姿を思い描きながら、歴史の小路の散策をお楽しみください。



▲園路が整備された道場門遺構での式典の様子



救急医療体制強化支援事業協定締結式
県内初の協定で医師の確保を支援

3月27日、西白河地方市町村会（会長、鈴木市長）が共同で医師の確保を支援し、救急搬送の受け入れ率向上と救急医療体制の強化を目的に、白河病院（院長、本田恒雄理事長）と、「救急医療体制強化支援事業に関する協定」を締結しました。この協定で、同病院は、4月1日から4年間、常勤医師として、杏林大学（東京都三鷹市）から1人、県立医科大学（福島市）から2人の医師の派遣を受けます。本田理事長は、「地域の健康を守るため、職員一丸となって日々の診療にあたります」と話しました。民間の病院と行政が同事業の協定を締結するのは、県内初となります。

▲協定書を取り交わした鈴木市長と本田院長（右）



▲医師が派遣された白河病院

工場立地に関する基本協定締結式
相次ぐ企業進出、新たに2社が本市に

市では、市内大坂山に進出する(株)成光工業（神奈川県川崎市、松尾教弘代表取締役）と(株)CKU（大阪府岸和田市、谷川章太代表取締役）の2社と、4月18日に「工場立地に関する基本協定」を締結しました。成光工業は、端子台用金具部品や熱交換器用部品に優れた技術を持ち、CKUは、小型熱交換器の開発に積極的に取り組んでいる企業です。両社とも11月の操業が予定されていて、雇用の創出が期待されます。



▲左から谷川社長、鈴木市長、松尾社長と松尾経理担当